

飼料用米の多収品種の取組(品種名:東北211号)

取組主体名:

A法人
(宮城県加美町)

基本情報

- 県北部の大崎平野の西部に位置し、内陸型気候
- 土壌:灰色低地土
- 従事人数:6人
- 臨時雇用:12人
- 経営面積、うち飼料用米面積:
40ha、うち飼料用米8ha
- 飼料用米開始年度:平成20年度

取組の経緯等

(地域の取組経過)

- 品目横断的経営安定対策の開始とともに町内に多くの集落営農組織が設立されたことを機に、これまでの大豆・飼料作物栽培に加えて、JA主導により飼料用米の生産が開始された。
- 平成20年からは「生活クラブ生協」の生産者である「平田牧場」の「こめ育ち豚」の配合飼料への提供が始まり、生産が拡大してきている。

取組のポイント

- 知事特認品種「東北211号」により多収を実現(H27年産単収:719kg/10a)
- 大豆後作、乳苗、疎植、立毛乾燥により生産コストを低減
- 県栽培実証ほとして平成26年度より取り組み

データ

	栽培方法	作付面積		単収(/10a)	
		H26	H27	H26	H27
飼料用米(品種:東北211号)	移植	0.9ha	1.5ha	715kg	719kg
主食用米(品種:ひとめぼれ)	移植	9ha	9ha	555kg	528kg

生産コスト低減の取組

- 大豆後作の実施により主食用米に比べて肥料費が75%削減され、1,750円/10a程度
- 団地化による作業の効率化とブロックローテーションによるコンタミリスクの軽減
- 補植作業の削減による労働時間の低減

(9/8現地検討会の様子)



課題・今後の目標

- 流入施肥による追肥の省力化
- 更なる生産コスト低減に向けては直播栽培の導入が必要。